（ 幼 － １ ）
令和６年 ３ 月 １ 日

名古屋市教育委員会　様

名古屋市立　第　二　幼稚園長
伊　藤　知　穂　美

令和５年度　学校評価報告書

学校教育の努力点（主題）	自分が大事　友達が大事　～一人一人の今に目を向けて～	ⅳ

１　実践のねらい

教師や友達との温かい触れ合いの中で、一人一人が好きなことや輝けることを見付けて夢中で遊ぶことで、自分の良さを感じたり、友達の考え方や行動のいいところに目を向けることにつながってほしい。

そこで、幼児一人一人の今に目を向け、経験していることや育ちを丁寧に読みとり、幼児理解を深め、一人一人が輝けるために必要な環境の構成や教師の援助のあり方を研究を通して考えていく。

２　実践のねらいに迫るための手だて

①　保育後の話や日々の記録、週案立案の際に、テーマの視点で幼児の育ちの捉えや教師の援助、環境の構成について考え、実践する。

②　研究保育や事例検討では、一人一人の今経験していることや育ちの過程を丁寧に読み取り幼児理解を深めるとともに、必要な環境の構成や教師の援助のポイントを明らかにし、次への手立てを考える。

③　掲示板、学年だより、ホームページ、評議員会などを通して保護者や地域の方にも園の取り組みを伝え、幼児教育への理解が深まるようにする。

３　実践の内容

・　研究保育や事例研究の中で研究保育参観教員が、テーマを捉えた動画を撮影し、「アセスメントシート」も活用することで、各教員の捉え方や読み取り方を「見える化」して検討会をした。また、幼児の姿や育ちについて、気付いたこと伝え合い、次への手立てを見出した。

・　実践を通して捉えた幼児の育ちの捉え方や環境の構成、教師の援助のポイントを生かして、一人一人の幼児が十分に楽しんだり遊び込んだりするようにした。

・　写真に育ちのポイントやエピソードを付けて保護者へ向けて掲示したり学年だよりとして配布したりした。

・　幼稚園評価を行い、保護者の思いや考えを知るとともに、学校評議員会においても意見を聴取し、改善策について職員で話し合った。

４　成果と課題

・　保育の振り返りや努力点研究会を通して、一人一人の幼児の育ちの捉えについて、他の教員の話を聞くことで多面的に考えたり、そこから次の日の保育に生かしたりするようになってきた。今後も一人一人の今に目を向け、教師が今必要な援助を分かりやすく記録・考察する必要がある。

・　保護者アンケートにおいて、「子どもたちが園生活を楽しめるように先生が工夫している」という意見をもらった。また、「幼稚園は、子どもの園での様子について分かりやすく伝えていますか（園だより、ホームページなど）」という項目で、昨年度は「Ｄ：思わない」が数人いたが、今年度は「Ａ：そう思う」「Ｂ：だいたいそう思う」合わせて９８％で昨年度より高くなった。今年度工夫してきた幼稚園の取り組みが理解されてきていることが伺えた。

・　評議員の方からは、「子どもたちがのびのびと遊んでいるのがいい」と本園の教育を評価されるとともに、「これからも自発的な活動をうながしていただきたい」と今後に期待する言葉をいただいた。

５　来年度に向けて

・　保護者アンケートにおいて、「就学を意識した取組をしているか」という項目で「あまり思わない、思わない」が合わせて１９％あり、評価が低かった。一人一人の今経験していることは、遊びを通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」が絡み合って育っており、小学校以降の学びの基礎となる力が育まれているということを具体的に分かりやすく知らせていく必要性を感じた。